

インフォメーション

会長選挙・評議員選挙 開票結果

次期会長・評議員選挙（任期は 2018 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）の開票結果を報告いたします

会長選挙 投票数83 （無効票0）

1. 田中幸一 45
2. 小野展嗣 14

評議員選挙 投票数830 （無効票123）

1. 新海 明 63
2. 田中一裕 54
3. 馬場友希 53
3. 加村隆英 53
5. 中田兼介 47
6. 井原 庸 41
7. 小野展嗣 38
8. 加藤輝代子 30
9. 初芝伸吾 27
9. 宮下 直 27
11. 須黒達巳 24
12. 原口 岳 23

13. 田中穂積 18
14. 奥村賢一 17
14. 島野智之 17
16. 佐々木健志 16

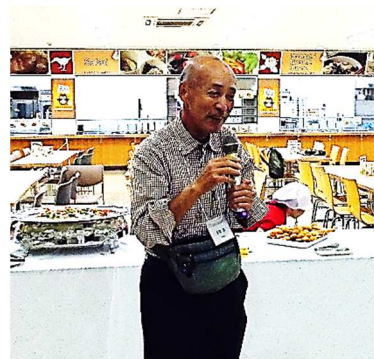
幹事として選出される方を除いて、評議員選挙で選ばれた上位 10 名が評議員となります。

名誉会員・日本蜘蛛学会奨励賞 学生発表賞

2017年11月4日に琉球大学で行われた総会におきまして、吉田 真さんが本会の名誉会員になりました。

2017年度日本蜘蛛学会奨励賞には原口 岳さんが選ばれました。

2017年度大会より新設された学生発表賞には鈴木佑弥さんが選ばれました。



新たに名誉会員になられた吉田 真さん



トピックス

日本蜘蛛学会第 49 回 大会印象記

弘中 豊

琉球大学で 11 月 4～5 日に行われた第 49 回大会に参加させていただきました。今年度から沖縄に移り住んだため、タイミングよく実に 7 年振りに参加することができました。大会にしばらく参加していない間、新聞や TV で昨今の学界に関して聞く声は、「基礎研究にけるお金が少ない」、「論文数が諸外国に比べて伸びていない」といった先行きを心配するものでした。実際、そういった面は確実にあるようです。そうした状況にも関わらず、大会が大きく発展していたことに変驚かされました。驚かされたことの 1 つは、研究のテーマが、個体群生態学、群集生態学、生化学、分類学、系統地理学、行動学、生命科学など、以前よりも多岐に渡っていたことです。もう一つ驚いたのは、各々の研究者の方々の研究が、より深いところまで着実に進展していた点です。

様々な講演の中でも特に印象に残ったものが 2 つあります。1 つは河野暢明さん(慶応義塾大学最先端生命科学研究所)の「マルチオミクス解析から見た蜘蛛系の系統的多様性」、もう一つは谷川明男さん(東京大学農学部)の「キムラグモ類の系統地理」です。

河野さんの講演は、より多様になった講演の象徴のように感じられました。様々な種のクモ系の遺伝子を解明するために最先端の機器を駆使する方法は、私が以前参加していた頃の大会にはなかったことです。最先端機器の仕組みや、その長所や短所を説明されている際は、他

言語を聞いているような感覚になりました。また、既存の繊維の特性は大きく二つ、高伸度・低強力・低弾性のものか、低伸度・高強力・高弾性のものに分けられるようですが、クモ糸は中伸度・中強力・中弾性であり、これまでにない物質であるという紹介もありました。既にその特性をもった繊維を再現し、衣服などに応用されているようです。この研究が進めば様々なものに应用できる可能性が感じられました。

印象に残ったもう一つの谷川さんの「キムラグモ類の系統地理」については、私が大会に参加していた頃から取り組まれていた研究です。その当時は、谷川さんから謎だらけだということを知っていて、「ゲゲゲのキムラグモ」と仰っていました。しかし、今回の講演を聞いて、その謎はかなり解明されたように思いました。沖縄本島には、キムラグモ属のヤンバルキムラグモとオキナワキムラ属のオキナワキムラグモの 2 種、キシノウエトタテグモ属のオキナワトタテグモとシマトタテグモの 2 種生息し、これらがどのように種分化してきたのかが謎だったと記憶しています。これについては、琉球列島が中国大陸の一部だったはるか昔に既に 2 種に分かれていて、大陸から切り離され琉球列島になったときに、2 種がそのまま残っ



講演の一幕

たというのが結論でした。質疑応答では、国立科学博物館の小野展嗣さんからも同じ結論にいたったという声が聞かれました。長年研究し続けることで、混迷していたことが解明にまで至っていたのは、傍で聞いていた私ですが感慨深いものがありました。

最後に、大会に参加することの意義を改めて感じました。久しぶりに大会に参加したため、新しい興味深い情報が得られました。また会員の方々に再会しただけでなく、初対面の方々との交流もでき、この出会いが何かに発展することも期待できます。実際、こうして印象記を書かせていただいているのも、谷川さんと再会したおかげです。次の機会では、私も何かの情報提供あるいは研究発表などをして積極的に大会に関わり、私自身だけでなく大会をよりよいものにしていきたいと考えています。



同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容、採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介します。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2～4回。総会・研究会を年1回実施。

蜘蛛（KUMO）50号(作成中)

採集観察会

本年度分は終了しました

総会・研究会は2018年2月11日(日、祝) ウィルあいちにて開催



中部蜘蛛懇談会 2016年度総会・研究会
参加者一同

入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

緒方清人（代表）

Tel 0566-83-4474

E-mail:neon_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑 1

名古屋市立大学 気付 片山詔久（会計）

Tel 052-872-5853

nory@nsc.nagoya-cu.ac.jp

会費

正会員 年 3000 円（高校生以下 1000 円）

準会員 「まどい」のみ 1000 円

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・総会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、行徳湿地で行います。

2018年 2月18日（日）

集合午前10時 千葉県行徳野鳥観察舎

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/gyoutoku.html>

世話人：加藤輝代子

連絡先：加藤携帯電話：090-7012-6458

例会

本年度分は終了しました。

KISHIDAIA 111号（2017年8月発行）

新海 明：こしき糸は足場糸になる

初芝伸吾・石井智陽・寺内優美子・池田博明：
ウズグモの餌種

泉 宏子：ムツメカレハグモの観察

腰高直樹：蓑虫による円網食い行動について

安田明雄：立春を迎えた3頭のジョロウグモ
（横浜市金沢区での記録）

鈴木佑弥：オガタモリヒメグモの網構造と捕食
行動について

藤野義人：京都市上京区御霊神社に生息している
ヒトエグモ

DRAG L I N E S

鈴木佑弥：ムナボシヒメグモを捕食したテング
ヌカグモ雌

鈴木佑弥：イエユウレイグモによるクモ食の記
録

鈴木佑弥：茨城県つくば市で採集されたクモ

鈴木佑弥：桜川市真壁町およびつくば市神郡に

て採集されたクモ

市川武明：上野原市新田で採集したクモ

五十嵐 悟・細井俊宏・水澤玲子・馬場友希：

福島市でツシマトリノフンダマシを発見

平松毅久：ヨコヅナサシガメによるギンメッキ
ゴミグモ卵囊からの吸汁

平松毅久：ジョロウグモの卵囊で越冬していた
クロマルイソウロウグモ幼体

馬場友希・中島 淳：福岡県北九州市白島（男
島）のクモ

馬場友希・片山直樹：沖縄島における水田・休
耕田のクモ

菅波洋平：白神山地(秋田県)の土壌から採集さ
れたクモ類

谷川明男・宮下 直：佐渡島のクモ類採集記録

池田博明：東京蜘蛛談話会 2016年度観察採集
会報告 町田市芹ヶ谷公園のクモ

入会申し込み

〒186-0002 東京都国立市東3-10-8

コンフィデンス高垣105 (有) エコシス

初芝伸吾 (事務局)

Tel 042-501-2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年2000円（学生1000円）

2015年度より値下げしました。

関西クモ研究会（会長：田中穂積）

会報「くものいと」を年2回発行。採集会・研
究会例会などを年数回実施。

くものいと 51号（作成中）

今年度の採集会・例会は終了しました。

入会申し込み

〒569-0087

高槻市千代田町 1-1-527

加村隆英 方

電子メール:kamura@haruka.otemon.ac.jp

会費 年 1000 円

三重クモ談話会 (会長：橋本理市)

会報「しのびぐも」を年 1 回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

しのびぐも 44 号 (2017 年 7 月発行)

塩崎哲哉：石垣島・西表島採集旅行記
(2016.2.16-23)

熊田憲一：伊勢神宮のクモその後 しのびぐも

報告と神宮宮域動物調査報告書

貝發憲治：雲隠れしたホシヒメグモモドキ

三重クモ談話会 2016 年度活動報告

三重クモ談話会 2016 年度総会報告

今年度の採集会は終了しました

総会・学習会 2018 年 2 月 17 日 (土) 松阪
市日野町カリヨンプラザ

詳しくは会のホームページをご参照ください。

参加希望者は事務局 (貝發) まで連絡してください。

入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町 7-4

貝發憲治 (事務局)

Tel (Fax) 0598-29-6427



mail : kumo@mctv.ne.jp

会費 年 2000 円

東京クモゼミ

毎月 1 回, 第 1 土曜日に千葉県市川市の加藤宅で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 042-679-3728

または, 加藤輝代子 047-373-3344

開催日は <https://dp7a-tnkw.wixsite.com/kumosemi> に掲示しています。

関西クモゼミ

会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 吉田 真 077-561-2660

メーリングリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる。入会の申し込みは e-mail で馬場友希まで。

ybaba@affrc.go.jp

言いたい！聞きたい！



クモ切手の風景 10

笹岡文雄

DDR ドイツ民主共和国、今は無き旧東ドイツが発行したキノコ切手 5 種です。キノコがメインですが添え物のように、クモと昆虫が描かれています。メインのキノコは学名入りですが、脇役はいずれも種名などありません。ただしそこそこの正確さで描かれている様で、クモはハナグモとコモリグモでしょう。

なぜキノコと共に描かれているのかは不明です。まさかそのキノコが生えるところに必ず生息するということもないでしょう。デザイン上の問題だと思いますが、シリーズ内の 1/3 にクモを配するという、単なる偶然と片付けるにはもったいない気がします。キノコ図案切手は世界的にも人気があり、それだけを対象としている収集家もいます。そんなことで、各国が競い合うようにかなりの数を発行しています。そのことから思うとクモ切手の収集家数も発行数に比例するはずで、まだまだキノコ派に太刀打ちできる数ではないようです。

今回は発行年 1980 年の円

との公定為替レート記録が見つかりませんでした。ただ西ドイツマルクとの公定レートでは 1 対 1、実質は 1/4 だだと言われています。当時西ドイツマルクとのそれは 1 マルク約 125 円でしたので、東ドイツ 1 マルクは実質約 30 円ほどの価値でしょう。

切手に単位は表示されていませんが、マルクではなくペニヒ(Pferennin)です。ちなみに 1 マルク=100 ペニヒでした。

いまやその単位も消えてしまいましたが、切手とは皮肉なもので収集家が居なくならない限り、通貨単位どころか発行した国家が消滅しても、それらの痕跡は世の中に残り続けます。



採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。】

イチフサチョビヒゲヌカグモ 静岡県天城湯ヶ島町滑沢溪谷 2003年8月26日 1♀坂寄 廣採集，菅波洋平同定

アマミトンビグモ 徳之島天城町西阿木名(当部林道) 2017年5月6日 1♀ 戸田尚希採集，緒方清人・加村隆英同定

シノノメトンビグモ 奄美大島龍郷町安木屋場 2017年6月10日 1♀ 緒方清人採集・同定，加村隆英確認

イヨグモ 大阪市東淀川区(食品工場の粘着板トラップで捕獲) トラップの設置期間:2017年5月17日～6月21日 2♂ 山下雅司採



アマミトンビグモ 撮影：緒方清人



シノノメトンビグモ 撮影：緒方清人

集，加村隆英同定

カズサハイタカグモ 茨城県小美玉市先後八幡池 2017年9月27日 1♂ 藤又賢司採集，納谷典明同定・馬場友希確認

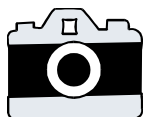
カニグモ 長野県富士見町入笠山 2017年7月31日 1♀ 納谷典明採集同定・谷川明男確認

モンシロコゲチャハエトリ 群馬県前橋市元総社町1丁目 2016年5月29日 1♀1♂ 腰高直樹採集，市川武明同定

クモマハエトリ 群馬県前橋市三俣町3丁目 2016年5月29日 1♂ 腰高直樹写真撮影，市川武明同定

コブヒメグモ 石垣島 屋良部岳 (シフティング)
2015年11月7日 2♀ 須黒達巳採集
同定

(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



ビフォー アフター

タイ南部にあるソククラ大学構内で採集して飼育していたタレバンハラフシグモ。見つけたときはまだ幼体で、だいたい色のかわいいクモでした。その後、2回脱皮をしてオスの成体になったのですが、どんな姿かなと楽しみにして巣穴から出して見ると、だいたい色だったクモは一瞬にして真っ黒なクモになっていたのです。

撮影・コメント：谷川明男

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp
(谷川明男) まで

遊絲の発行は、年2回(5月、11月)の予定。
投稿締切は発行月の前月末日(4月末と10月末)です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは ***

入退会は

庶務幹事

中田兼介

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町

35 京都女子大学

E-mail: nakatake@kyoto-wu.ac.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

加藤輝代子

〒272-0827 千葉県市川市国府台 5-26-16-206

E-mail : kiyoko_kato@tce.ac.jp

年会費 正会員 7000円 (学生は 5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

日本蜘蛛学会

遊絲 第41号

2018年1月9日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 宮下 直
